

事業別の概況

■売上概況

●電池事業

アルカリ乾電池は、北米向けOEM販売、インターネット販売用途向けが伸長したことや国内では自然災害の発生やスマートフォン緊急充電用途向けで一時的に数量が伸長したものの、円高に伴う換算の目減りにより、前年同期を下回りました。ニッケル水素電池は、国内外の工業用途向けや車載用途向けが落ち込む反面、国内および北米向けOEM販売が伸長し生産数量が増加しましたが、円高による換算の目減りにより、前年同期を下回りました。蓄電システムは、自動販売機・通信機器バックアップ用途向けが堅調に推移したことにより、前年同期並みとなりました。リチウム電池は、国内の防災機器・セキュリティ用途向けや海外の車載用途向けが堅調に推移したものの、海外の防災機器用途向けが落ち込んだことに加え、円高に伴う換算の目減りにより、前年同期を下回りました。

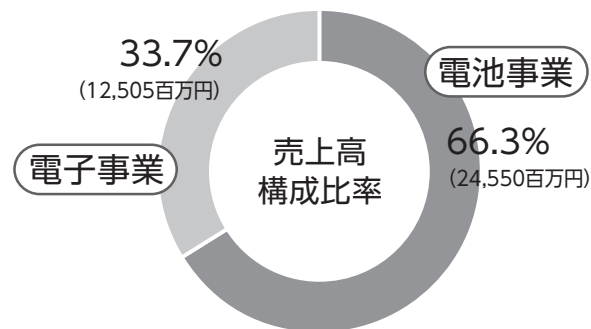
その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ9億96百万円減の245億50百万円となりました。

●電子事業

フェライト・コイルデバイスは、車載用途向けが堅調に推移したものの、民生・産業機器用途向けが落ち込んだことにより、前年同期を下回りました。セラミック部品は、デジタルカメラ市場の低迷などにより、前年同期を下回りました。DC-DCコンバータは、サーバ・ストレージ・ネットワーク機器・各種産業機器用途向けが落ち込んだことにより、前年同期を下回りました。液晶ディスプレイ用信号処理モジュールは、大型液晶TV用途向けなどが落ち込んだことにより、前年同期を下回りました。スイッチング電源は、産業機器用途向けが堅調に推移し、前年同期を上回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ25億57百万円減の125億5百万円となりました。

■売上高構成比率



■売上高

